仕様書（RFQ）を作成する

- 「仕様書」は委託する内容を詳しく記述した書類のこと
- その仕様に合った見積もりの作成を依頼する。
- RFQとは Request for Quotation の略。
- ３PLにとってはこの「仕様書」が見積もりの根拠になるとともに、請け負う仕事の条件書となる
- 最初の決めごとがしっかりしていなければいろいろな不具合が発生する
- その不具合とは・・・

仕様書が無いことによる不具合

- ✓ 荷主にとって期待通りの仕事をしてもらえない（だって条件を提示していないでしょ）
- ✓ 思ったほどコストが下がらない（条件があいまいだと３PLは安全を織り込む）
- ✓ ３PLにとって採算が合わないことが発生する（だって受注前に条件を確認しなかったでしょ）

当然のことですが、仕事をスタートする前には条件を明確化しておくことが必要である

仕様書に織り込むべき項目（例）

- 荷量情報（月間、日当たり、ｍ３、ｋｇ）
- 発地、着地（所在地）
- 荷姿情報
- トラックサイズ
- 日当たり輸送回数
- 積載率考慮の可否
- 個建て、車建て
- 高速道路の利用可否
- 積込条件（荷揃えの有無、荷揃え場までの距離）
- 荷降ろし条件（荷降ろし場の数、荷降ろし場までの距離）
- 改善提案

仕様書（RFQ）作成の考え方

- ✓ パターン１：物流条件を荷主側ですべて決定する方式。
- ✓ パターン２：キー項目は指定するが、３PLに提案の余地を残す方式。
- ✓ パターン１では物流を厳格な生産運営の条件としているケースで、変更は荷主の指示による
- ✓ パターン２ではキー項目だけ指定し、後は３PLに判断の余地を残しているため、ある程度３PLの提案で仕事を組み立てられる。